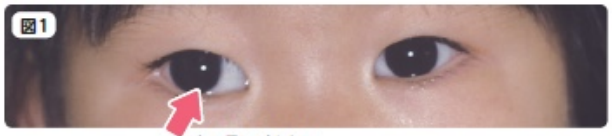
顔写真で見つかる目の異常

01 先天緑内障



右の黒目が大きい

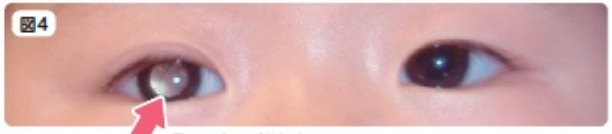
左の黒目が大きい

先天緑内障では、乳児の眼球は成人に比べて柔らかく伸びやすいため、黒目(角膜)が大きくなります。その結果、涙がたくさん出たり、黒目が白く濁ったり、まぶしいため光をとても嫌がることがあります。[図1]は右眼先天緑内障。右の黒目が大きく、視力が悪いため外斜視になっています。[図2]は左眼先天緑内障。左の黒目は右に比べて大きく、白く濁っています。

02 先天白内障

黒目の中心が白い

03 網膜芽細胞腫



黒目の中心が黄緑色に光る

瞳(ひとみ、瞳孔)に異常がみられます。先天白内障では[図3]のように黒目の中心が白く見えることが多く、網膜に異常があると[図4]のように黒目の中心が黄緑色に光って見えます。
フラッシュ撮影した写真で発見されることが多い病気ですが、進行すると肉眼でも観察できます。

お子さんにこのような様子が見つかったら、できるだけ早く眼科を受診してください。

目の異常を早期に発見するために 3歳児健診を受けましょう!

弱視の子どもは50人に1人と言われています。
弱視とは、視覚の発達障害により
メガネやコンタクトレンズを使用しても
視力が1.0に満たない状態のことです。
早期に発見し早期に治療することが大切です。

[企画・制作]
公益社団法人
日本視能訓練士協会
Japanese Association of Certified Orthoptists
https://www.jaco.or.jp/

【注意事項】
1. 本リーフレットの内容は、当協会ホームページ:URL"https://www.jaco.or.jp/"「お目知識」の「乳幼児の視覚発達について」でも公開しております。(ダウンロード可能)
2. 本リーフレットの内容の無断転載を固く禁じます。転用・転載のご希望の場合は、当協会事務局にお問い合わせください。

目の健康チェックシート

お子さんの目の状態をチェックしましょう!

[監修] 公益社団法人 日本医師会
公益社団法人 日本眼科医会

目の状態をチェックしてみましょう

下記に書かれている時期はあくまでも参考です。発達には個人差があり特に乳幼児期はその差も大きいものです。目の異常を見逃さないためにも日々の観察が大切です。確認はお子さんの機嫌の良い時に行ってください。

⚠ 一つでも該当すれば
早めに眼科を受診しましょう。

0ヵ月～

- ☑ 瞳が白く見えたり、黄緑色に光って見えることがありますか?
- ☑ 目がゆれることがありますか?
- ☑ 黒目が大きく、濁って見えることがありますか?

3・4ヵ月～

- ☑ フラッシュをたいて正面の顔写真を撮ってみてください。
  ※ライトを当てても確認できます。

通常はフラッシュの反射が瞳のまん中に映ります

反射が
- 内側にずれて
- 外側にずれて
- 上側や下側にずれて

いますか?

※片目が内側に寄っているように見える時は、目と目の間をつまんで観察してください。

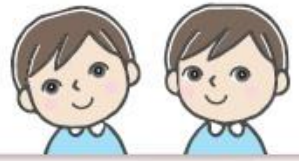
年齢にかかわらずチェックしましょう

- ☑ 片目の前にそっと手をかざしてみてください。片方ずつ試してください。片方だけ嫌がって顔をそむけたりしますか?

※隠す手の指と指の間に隙間ができないよう気を付けます

1歳～

- ☑ テレビや本に極端に近づいて見ますか?
- ☑ 片目をつぶったり、まぶしがったりすることがありますか?
- ☑ 暗い所で行動が鈍る様子はありますか?
- ☑ 頭を傾けたり、横目づかいでものを見ることがありますか?



2歳～

- ☑ 本など近くの物を見る時、目が内側に寄ることがありますか?

3歳～ 3歳児健康診査を必ず受けましょう!

- ☑ 見えにくそうに目を細めて物を見たりしますか?
- ☑ 視線が合わず、どこを見ているか分からないことがありますか?

子どもの目の発達と弱視について

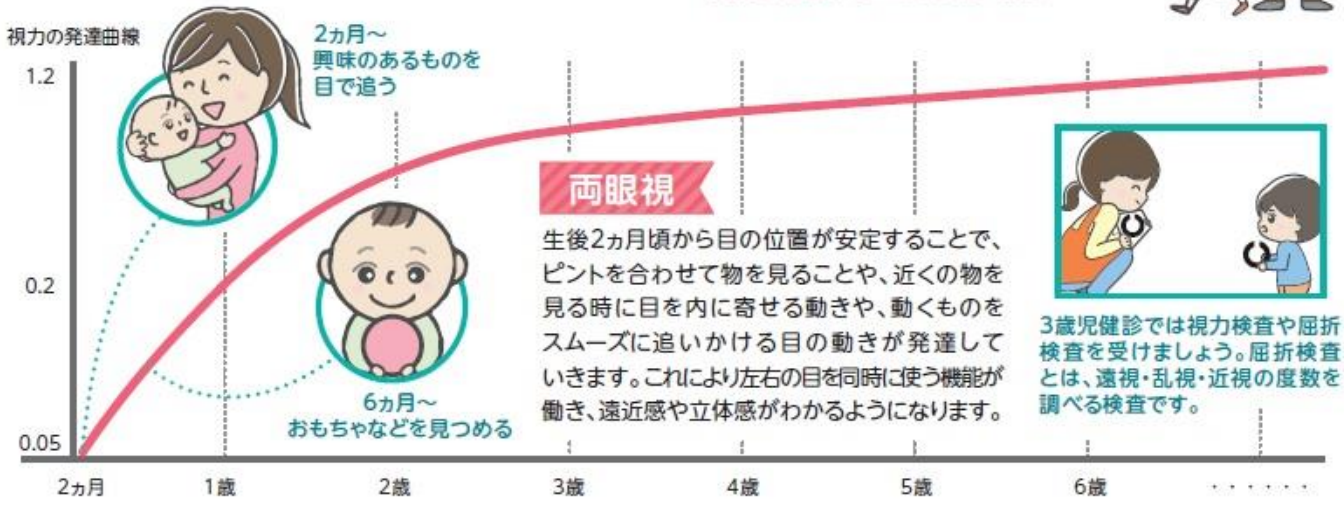
視覚の発達

赤ちゃんは生まれてすぐから大人と同じようにはっきり見えているわけではありません。
「はっきりとした像を見続けること」で視力は発達していきます。
成長と共に、2つの"**見る機能**"【視力・両眼視】が発達してきます。

0ヵ月～
人の顔をぼんやりみる

視覚の発達する時期【視覚感受性期】は限られています。

生後1ヵ月～1歳6ヵ月頃に急激に発達し8歳くらいまで緩やかに発達していきます。成長する過程で何らかの問題(強い遠視や乱視、斜視など)があると正常な視力の発達ができず、見る機能に影響を及ぼし弱視になる可能性があります。
感受性期を過ぎる前に早期に異常を発見し治療することが大切です。



両眼視

生後2ヵ月頃から目の位置が安定することで、ピントを合わせて物を見ることや、近くの物を見る時に目を内に寄せる動きや、動くものをスムーズに追いかける目の動きが発達していきます。これにより左右の目を同時に使う機能が働き、遠近感や立体感がわかるようになります。

3歳児健診では視力検査や屈折検査を受けましょう。屈折検査とは、遠視・乱視・近視の度数を調べる検査です。